

「西部先生への自殺ほう助は罪に問われることでしょうか？」

平成 30 年 7 月 18 日

●りょうさんからの質問

西田先生、はじめてお便りさせていただきます。いつも先生の動画で楽しく勉強させていただいてます。ありがとうございます。はじめての質問にも関わらず大変、聞きにくくお答えしにくい内容かもしれませんが「ズバッと答える」という趣旨かと思しますので、質問させていただきます。質問は西部邁先生の自殺ほう助についてです。現在、ニュースで伝えられてる所、TOKYOMX の窪田さんと青山忠司さんが公判中で、窪田さんは無罪を主張し、青山さんにおいては起訴内容を認め懲役二年の求刑が出たとのことです。私が思う所、おそらく青山さんは最初から罪になる事も承知して引き受けたのだと思います。そもそもそのぐらいの覚悟がないと到底、引き受けられる事ではないと思うからです。ネットでも様々な意見が出ており、中には西部先生に対して「西部は人に迷惑をかけたくないといいつつ、結局、最後は友人を罪人にして迷惑をかけてしまったではないか」という意見もあります。私は普段、西部先生を尊敬しておりましたが「結局、迷惑をかけてしまった」という点ではその通りだなと思いました。この件があってから「もし自分が頼まれたらどうするか」と何度も考えましたが、なかなか答えが出ません。もちろん、そう安安と引き受けられる事ではありませんが、もし西田先生が西部先生から頼まれていたらどうされてましたでしょうか。きっとお断りになるんだろうと想像しますが、その断る理由は何でしょうか？自殺ほう助をすれば罪人だと思いますか？お聞かせいただけたら幸いです。

●西田昌司の答え

もしも私が西部先生に頼まれていたらきっぱりと断りましたし、「先生、人に頼まなくても自裁する方法があるではないですか。どうかご自分でおや

りになってください」と進言したと思います。

人間、元気な時に死ぬ必要は全くありませんが、今は元気といえども何れは老いという現実には誰しも直面しなければなりませんし、不治の病に見舞われる人もいらっしゃいます。このまま生き続ければ周りの人間に迷惑をかけるだけという状況に陥ったら自分で自分の始末を付けるべきだ、という西部先生の主張は私も十分に理解できます。しかし、そのようにかねてから「最期は自裁する」とおっしゃっていた西部先生が、結局は弟子筋の人の助けを借りなければ決行できなかったのは非常に残念に思いますし、自分でやれなくなってしまう程に西部先生は老いてしまったのかな、と思わされます。

西部先生と付き合った人間はよくわかるように、西部先生はかなり厳しい人ではありましたが、「人を励ますことで自分も励まされるんだよ」と常々発しては実践する「義」の人でした。そんな西部先生に恩義を感じている人もたくさんいましたし、窪田さんや青山さんもそういった人達です。ですから、二人は西部先生に頼まれると恐らく断れなかったのでしょう。とすると、頼んだ側の西部先生は加害者で、頼まれた側の二人は被害者であった、という解釈も可能です。そのように考えると、今回の出来事は果たして立件できるものだったのであろうか、という疑問を私は強く持っていますし、加害者が既に亡くなっているのですから裁判云々ではなくそのまま終了にすべき話であったと思います。

二人は、西部先生を決行の現場である玉川の河川敷に連れて行ったり、西部先生の体に縄を結んだとして自殺ほう助の罪に問われているのですが、西部先生を死に至らしめるようなことを直接はしていないのです。実際に玉川に入って自殺したのは西部先生自身ですし、二人が直接手を下したわけではありません。

遺体が流されないよう、西部先生に結んだ縄のもう一方は河川敷の木に結ばれていました。もしも遺体が東京湾に流されてしまっ行って行方不明になってしまえば却って迷惑をかけることになってしまうからという気遣いからで

しょうが、その縄は考えようによっては自殺を思いとどまらせる役を果たす命綱にだってなるのです。入水の途中で西部先生が「やっぱり止めた」と思えば、その縄を頼りに引き返すこともできるわけですし、二人のやった行為は自殺ほう助には該当しないと私は思います。であれば、青山さんのように起訴内容を認めるのではなく、窪田さんのように無罪を主張すべきです。

私は青山さんの逮捕後に青山さんと話をしていないので真相はわかりませんが、起訴内容を認めるとしても執行猶予が付くでしょうし、さっさと裁判を終わらせた方が早く社会復帰できると踏んだのでは、と想像もします。一方、窪田さんが逮捕されて拘留された後に私は窪田さんとお話しする機会がありましたが、窪田さんは自殺ほう助をしたという認識を持たれていませんし、それが正しい認識でしょう。窪田さんには裁判でしっかりと闘っていただきたく思います。

西部先生は人生の最期に間違いをされてしまったと言わざるを得ません。私は西部先生を大変に信奉していましたし、雑誌『表現者クライテリオン』の追悼特集で私は西部先生の自裁を「先生、お見事でした」と書きましたが、真実を知った今となってはそのような気持ちは消え失せてしまいました。西部先生に対しては正直多少の憤りを覚えたわけですが、とは言っても西部先生がされた言論活動は大変に立派であったという気持ちに今も変わりはありません。私は今回の顛末に接して、西部先生を過不足なく評価すべきという思いをあらたにしました。

一神教の信者のごとく西部先生を絶対の存在として崇めるのではなく、西部邁といえども時には過ちを犯す一人の人間であったと捉えるべきですし、西部邁の言うことは全て正しいと盲信する姿勢からは脱却すべきなのです。西部先生と同じく我々もまた過ちを犯す人間ですし、であるからこそ何が正しくて何が間違っているかということ自分の頭を使ってしっかりと考えるべき、と今回の自殺ほう助騒動から我々は学ぶべきではないでしょうか。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>